

公開タグ	心臓リハ関連	公開タグ	心臓リハ関連
タイトル	COVIDO-19に対する心臓リハビリテーション指針	タイトル	心臓病患者さまへの啓発資料
主に該当する病期	病期を問わず	主に該当する病期	病期を問わず
概要	日本心臓リハビリテーション学会からの指針。以下3つの項目の記載されている。1. 入院中のリハビリテーションについて、2. 外来の心臓リハビリテーションについて、3. CPX（心肺運動負荷試験）について。	概要	・日本循環器学会による患者指導用の資料。・図を用いて、症状出現時の対応、服薬時の注意点、感染予防、受診時期の延長について案内している。
最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	・感染予防対策：リハビリテーション実施における注意事項が項目ごとに記載されておいる。入院中の心リハは自粛せず、適切な導入、継続が望ましい。外来は在宅リハを推奨。CPXは基本的には回避、治療方針決定のために他に代用がない場合には、被験者の状態を確認した上で、医療者は飛沫感染を予防した上で実施する。	最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	・患者指導用の資料としては、簡潔な内容で1枚にまとまっている。・医療従事者が行う指導用資料として活用できる。
リソースのリンク	http://www.jacr.jp/web/wp-content/uploads/2020/04/JACR_CV19_20200413.pdf	リソースのリンク	https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/JCSCCOVID19-2.pdf
QRコード	 <p>http://www.jacr.jp/web/wp-content/uploads/2020/04/JACR_CV19_20200413.pdf</p>	QRコード	 <p>https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/JCSCCOVID19-2.pdf</p>
公開日	2020/4/20公開	公開日	2020/4/18公開

公開タグ	心臓リハ関連	公開タグ	心臓リハ関連
タイトル	日本心臓リハビリテーション学会の取り組み	タイトル	心臓病患者さまへのコロナウイルスQ&A
主に該当する病期	病期を問わず	主に該当する病期	病期を問わず
概要	日本心臓リハビリテーション学会が、現在、4/8にEAPC (European Association of Preventive Cardiology) から出された「COVID-19 感染流行期における心臓リハビリテーションの運用に関する勧告」について、EAPCの許諾をとり日本語訳を進めている。	概要	・日本循環器学会による心臓病患者に対する勧告。・症状がある場合の対応や服薬、受診の時期などを公開。・発熱によって循環器症状が悪化しやすい。・内服薬の副作用を危惧する自己休薬は心臓病を悪化させるため避けること。・不明な点はかかりつけ医に相談すること。
最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	現在の情勢における心臓リハビリテーションの運用について、大変参考となる情報が日本語訳中である。早期の情報収集に役立つ。	最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	・注目すべき点は、心臓リハビリテーションにおける運動指導や服薬管理など包括的な指導内容について言及している。・理学療法士はこれらの情報を踏まえ、可能な範囲で患者指導をしていくべきである。
リソースのリンク	http://www.jacr.jp/web/news/20200417/	リソースのリンク	https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/JCS_COVID19-1.pdf
QRコード	 <p>http://www.asas.or.jp/jhfs/topics/20200417.html</p>	QRコード	 <p>https://www.j-circ.or.jp/cms/wp-content/uploads/2020/04/JCS_COVID19-1.pdf</p>
公開日	2020/4/17公開	公開日	2020/4/18最新

公開タグ	心臓リハ関連	公開タグ	心臓リハ関連
タイトル	高血圧患者が緊急事態宣言下で注意すべきこと	タイトル	国立国際医療研究センターリハビリ科の感染対策方法
主に該当する病期	病期を問わず	主に該当する病期	病期を問わず
概要	<p>・日本高血圧学会による血圧管理に関する勧告。・パンデミック中でも適度な屋外での散歩等は制限対象ではなく、継続可能である。・保存食品等は塩分過剰となりやすく注意が必要である。・生活習慣が乱れないようにする必要がある。</p>	概要	<p>国立国際医療研究センターのリハビリテーション科のCOVID-19に関する対応が文章で記載：COVID-19 確定及び濃厚疑い患者についての対応（装備、物品、担当者と業務内容、嚥下訓練と呼吸訓練の留意点）、COVID-19 から回復した症例、COVID-19 の検査をしていない症例での咳に対する配慮、訓練開始後の PCR 検査症例について記載</p>
最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	<p>・注目すべき点は、高血圧患者に対する疾病管理のために適度な運動は必要である。・理学療法士は基本的な感染予防を指導した上で、在宅や可能な屋外での運動指導を考慮すべき。</p>	最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	<p>・リハビリ科としての運営や感染対策の一助</p>
リソースのリンク	https://www.jpnsn.jp/data/202004corona.pdf	リソースのリンク	https://www.ncgm.go.jp/covid19.html
QRコード	 <p>https://www.jpnsn.jp/data/202004corona.pdf</p>	QRコード	 <p>https://www.ncgm.go.jp/covid19.html</p>
公開日	2020/04/公開	公開日	2020/4/10公開

公開タグ	心臓リハ関連	公開タグ	心臓リハ関連
タイトル	新型コロナでは心血管疾患に注意	タイトル	「新型コロナウイルス感染症流行下の身体活動不足・座りすぎ対策」
主に該当する病期	病期を問わず	主に該当する病期	慢性期
概要	Medical Tribune社によるコロナウイルスの症状についての発信。・主に呼吸器症状だが、循環器関連の症状を呈する症例がある。・急性冠症候群は認められていないが、心筋障害を呈する症例がある。心筋トロポニンの上昇を伴う症例が全体の8～12%に認められる。	概要	・新型コロナウイルス感染症対策における外出自粛の要請にともなう身体活動不足や座りすぎによる健康被害を防ぐための声明である。 ・全世代で家の中やその周辺において人と人との距離を充分にとり実施する身体活動を推奨している。まずは今より10分多くからだを動かすことを奨励している。 ・65歳以上では、「1日40分、ゆっくりでもいいので体を動かすこと」を身体活動量の目標として奨励している。
最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	・注目すべき点は、心筋トロポニンの上昇を伴う症例が全体の8～12%に認められる。・理学療法士は対象患者の血液マーカーの変化にも留意すべき。	最も注目するポイント＝理学療法にどのように役立つか？	・軽症で運動負荷制限のないCOVID-19罹患患者に対して、間接的に理学療法士が関わる際に指導すべき内容の参考となる。 ・世代別の目標が記載されているので、理学療法士による退院後の運動指導などに活用できる。
リソースのリンク	https://medical-tribune.co.jp/news/2020/0413529937/?_login=1#_login	リソースのリンク	http://jaee.umin.jp/doc/covid19.pdf
QRコード		QRコード	
公開日	2020/4/13公開	公開日	2020/4/18公開